

流総計画の再構築にあたっての視点

「成熟時代の流総大改革」

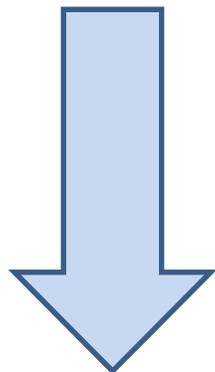
(普及率の向上や人口減少・負荷量減少により、効率的な水質改善の役割の縮小)

流総指針への反映

- ①トレードオフにある水質改善と省エネ・創エネの両方を推進
 - ・エネルギーポテンシャルの把握
 - ・消費エネルギーの観点からの処理水質評価 等
- ②豊かな海、生物多様性の保全に考慮
 - ・地域による目標像の考慮
 - ・季別運転の位置づけ 等
- ③都道府県がリーダーシップをとる流域別下水道整備総合計画であることから、複数市町村の広域的事業・総合的監理
 - ・都道府県のリーダーシップにより、管内の下水道計画を誘導
 - ・処理場の統廃合
 - ・集落排水等の接続
 - ・バイパスへの考慮 等
- ④人口減少社会への対応
 - ・計画期間中の人口動態予測を活用した施設計画と水質予測
 - ・中期目標年次による計画策定
- ⑤経済性だけでなく、事業主体の管理・執行体制への考慮
 - ・広域化の推進
- ⑥流総業務の活性化
 - ・流総HPの作成
 - ・全ての流総を公表
 - ・流総指針を公表、ベストプラクティス（先進事例）の紹介
 - ・流総の日 等
- ⑦データの整理、蓄積
 - ・流総業務で把握する汚濁負荷量等のデータを一元整理
- ⑧技術開発、技術導入の推進
 - ・流総指針の別添資料に最新技術の掲載
 - ・個別計画策定フローで発生する新たな技術開発の必要性を公表

○第一回検討会(平成25年8月27日)

- 設置趣旨、流総計画再構築にあたっての視点、今後の進め方



○事務局にてモデル流域での検討(大阪湾、米代川)

- ・大阪湾において季別運転等の検討

(主に資料5の①~④)

- ・米代川において人口減少に対応した統廃合等

(主に資料5の③~⑤)

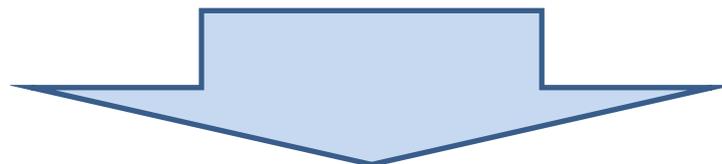
○国総研にてエネルギーから見た処理水質の設定検討

○第二回検討会(平成25年12月頃)

- モデル流域検討結果、流総指針への考え方、流総指針素案

○第三回検討会(平成26年3月頃)

- 流総指針改定案



以降、必要に応じて継続検討